

サトイモ (サトイモ科)

乾燥に弱いので敷きわらと灌水で土の水分を保つ。大きい種イモを植え、土寄せをして良質のイモを作る。連作を避ける。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培					定植					収穫			

1) 適地

土の乾燥には弱いので普通畑より水田畑に適しますが、普通畑や砂地でも灌水に注意すればよくできます。

2) 品種

親イモ用、子イモ用、兼用、葉柄（ずいき）用などがありますが、子イモ用か兼用種がよいでしょう。

親イモ用：京芋

子イモ用：石川早生、土垂

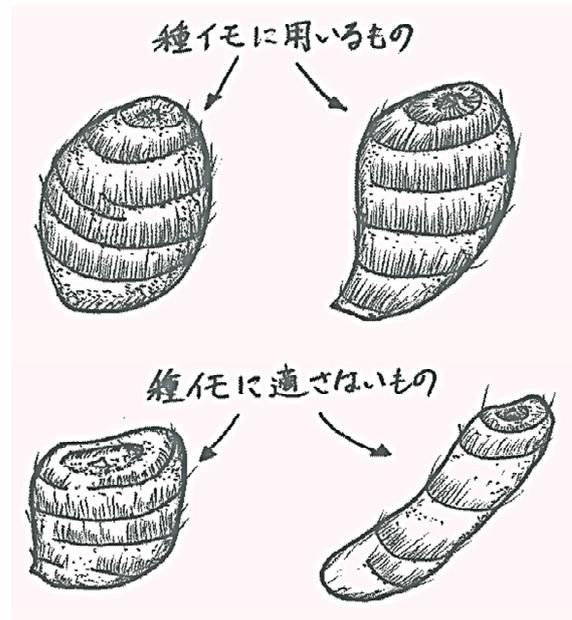
兼用：八ツ頭、唐の芋、赤芽（セレベス）、海老芋、

3) 作り方

【圃場の準備】サトイモを4～5年作っていないところを選びます。定植の1か月前に1m²当たり堆肥3～4kg、苦土石灰100g、BMようりん50gを施し、深く耕しておきます。定植の1週間前には1m²当たり高度化成肥料100gを入れ、幅90～100cmの畝を立てます。畝の高さは、普通畑では平畝に近い状態に、水田では20cm程度とします。基肥は植え溝に施す方法もあり、その場合は、植えたイモとイモの間にまとめて施用します。

【定植】種イモは子イモか孫イモを使い、前年のイモを自家貯蔵しておくか購入します。大きい種イモほど初期生育が早いので、最低でも40g以上のふっくらした丸形で、芽の傷んでいないものを使います。

八ツ頭は親イモを用い、そのままか3～4片に分割します。株間30～40cmの1条で4月中下旬に定植します。子イモ用品種は株間を狭く、兼用種では広くします。定植は、芽を上向きにし、5～6cmの覆土をします。深植えしすぎると、出芽の遅れ、種イモの腐敗、子イモの太りが悪くなるなどの影響があります。ポリフィルムでマルチする場合は土寄せできませんので、10cmくらいの深さとします。一般に種イモを催芽する必要はありませんが、早掘りしたい場合は、ハウスな



良質な種イモの選び方

ど温度の保てる場所で種イモを苗箱に伏せ込み、あらかじめ催芽してから植えつけます。その場合、芽が2～3 cm に伸びたところが定植の適期です。1つの親イモから複数の芽が伸び出した場合は1本に間引きます。

【追肥・土寄せ】7月中旬からイモの発生と肥大が盛んになります。そのため、追肥は5月上旬～7月上旬に約20日間隔で2～3回、1m²当たり高度化成肥料20gを施用し、土寄せします。海老芋では、独特の海老状にイモを反らせるために側芽を外側に押し広げ、主茎と側芽との間に土を入れるように土寄せするのがポイントです。

【管理】最後の土寄せが終われば、畝の表面に敷きワラをして乾燥を防ぎます。

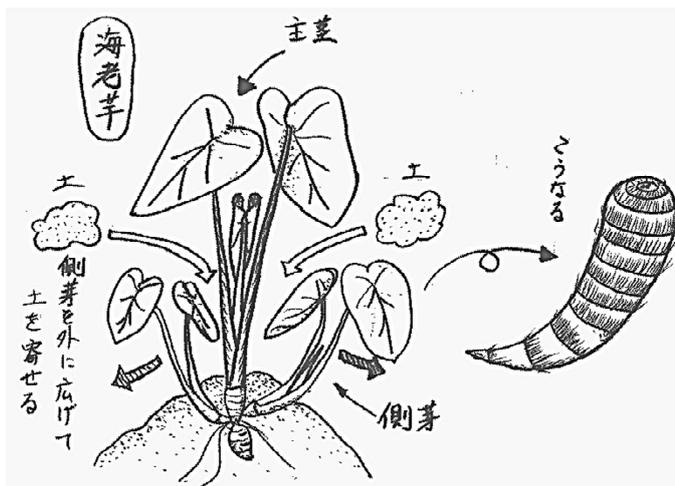
乾きやすい畑では盛夏にはたっぷり灌水します。干ばつや風害等で茎葉が痛むと、イモに水晶症状が出て、食味が極端に悪くなるので注意します。

【収穫】通常は10月中旬～11月上旬が掘り取り時期ですが、マルチ栽培や催芽により9月からでも収穫ができます。収穫の方法は株のできるだけ外側から大きく掘り上げ、イモに傷をつけないようにします。

【貯蔵】乾燥貯蔵と生貯蔵があります。乾燥貯蔵は掘り上げて2～3日乾かし、株からイモを取って選別し、網袋などに入れて風乾させ、冬期は5℃以下にならない暗所で保存します。生貯蔵は、圃場に植えたままでする場合といったん掘り上げて貯蔵する場合があります。前者では水が入らないよう周囲に溝を掘って株の上に土を盛り、モミガラやワラなどで十分覆います。後者ではやはり保存場所の排水をよくし、子イモを取らずに株をそのまま並べてその上に土を30～50cm盛り、モミガラなどで覆います。排水がよいところであれば穴を掘って埋めます。

4) 病虫害防除

害虫では、アブラムシ類、ハダニ類、スズメガが発生しますので、早期に防除します。



海老芋の土寄せの方法



出荷された海老芋